終わらない夏休み

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 男１　高校生

 男２　高校生

 男１の部屋。男１と男２登場。

男１ 違うよ、明日だよ

男２ 本当に？

男１ 本当だよ

男２ あれ、そうだっけ？

男１ そうだって

男２ 今日って火曜日だよな？

男１ ああ

男２ 火曜からだった気がするんだけどな

男１ 水曜からだよ

男２ 中途半端なときだったなっていうのは覚えてるんだよ

男１ 確かにそうだよな

男２ あれ？　でもなぁ

男１ だから何回も言ってるだろ。始業式は明日。今日はまだ夏休み

男２ ……そっか

男１ 学校行ったら恥かくだけだぞ。誰もいない教室に一人で、通りかかった先生に「あれ？　何しに来たの？」って

男２ うわ、絶対嫌だな、それ

男１ 俺としてはおもしろいけどな

男２ 俺はおもしろくないよ。よかった、お前迎えに来て

男１ 何でわざわざ迎えに来たの？

男２ 何で？　その言い方ひどくないか？　お前は絶対学校あること忘れてると思ったんだよ

男１ バカ言うな。忘れてるわけないだろ。お前と一緒にするな

男２ お前に優しさを見せた俺がバカだった

男１ うん、お前がバカだったんだ

男２ 二度と情けはかけない

男１ 感謝しろよ

男２ でもさ、何で制服着てるの？

男１ ああ、学校に用があったんだけど、別に急いでないから。後で行ってくるよ

男２ そうか

男１ ま、せっかく来たんだし、ゆっくりしてけよ

男２ いや、もう帰るよ

男１ そう言うなって。せっかく来たんだから、俺の宿題でもやってけよ

男２ は？

男１ 宿題

男２ やってないの？

男１ やってるわけないじゃん

男２ 偉そうに言うな

男１ 持ってるだろ？　宿題

男２ ああ

男１ 見せて

男２ 一冊千円な

男１ 高いよ

男２ これでも相場よりずっと安いぞ

男１ 頼むよ、親友

男２ 俺は前々からお前と友達をやめようかと思ってるんだ

男１ 冷たいこと言うなよ。お前が友達じゃなくなったら俺は誰をおちょくったらいいんだよ

男２ 帰る

男１ 待てって

男２ 何、お前、宿題やる気あるの？

男１ あるある

男２ 明日だよ？

男１ 何言ってんだ。これでも早い方だぞ。自慢じゃないけどな、俺は提出期限なんか守ったことないんだ

男２ 本当に自慢にならないな

男１ でも俺は心を入れ替えた。宿題は夏休み最終日にやる

男２ 遅いよ

男１ 俺の本気をナメるな。宿題なんか一日あれば終わるんだ

男２ ふーん。じゃ俺帰るから、がんばって

男１ 協力してくれよ

男２ 嫌だよ、お前に付き合ってるとロクなことないんだもん

男１ 一人だとやる気出ないんだよ

男２ 本気出せば終わるんだろ？

男１ 答えなくしちゃったんだよ

男２ バカだろ、お前

男１ だから学校行って宿題の答えもらおうと思ったんだけど

男２ すげぇ今更だな

男１ 今から行ったら怒られるかな？

男２ 怒られるっていうか、バカにされるんじゃないか

男１ だよな

男２ 何の答えなくしたの？

男１ 英語と国語

男２ 何でなくすんだよ？

男１ 勝手にどっか行っちゃうんだよ

男２ そんなわけあるか

男１ きっとこの辺にいるんだ

 男１、男２の鞄を開ける。

男２ 人の荷物をあさるな

男１ いた、俺の英語の宿題

男２ 俺のだ

男１ 後はこれに俺の名前を書けば完成だ

男２ 貸さないぞ、答え

男１ 怒るなよ、代わりに俺のまっさらなテキストやるからさ

男２ いらねぇよ

男１ よし、じゃあやるか

男２ がんばってくれ

男１ 答え写すだけって何の勉強にもならないよね

男２ お前が言うな

男１ でもこんな作業無駄じゃない？

男２ だったら自力でやれよ

男１ 無理だよ、英語分かんないもん。あーあ、何で日本人なのに英語なんか勉強しなきゃいけないんですか？

男２ は？

男１ 教えてください。何でですか？

男２ それは、国際化社会に対応してとか、そんなんじゃないの？

男１ 日本から出たことない奴に国際化なんて言われたくないね

男２ いっぺん死ぬか？　お前

男１ さあ、やるぞ

 間。

男１ ねえ、これ何？

男２ どれ？

男１ これ

男２ チューズデーだろ

男１ チューズデー？

男２ 火曜日だよ

男１ 火曜日ってファイヤーデーじゃないの？

男２ バカかお前は

男１ 何でだよ

男２ 中学校で習ったろ？　それぐらい知っとけよ

男１ 知らねぇよそんなの

男２ 中学行きなおせ

男１ 嫌だよ、中学生、俺より賢いもん

男２ お前さ、曜日って英語で言える？

男１ 言えるよ、バカにするな。月曜は、ムンデー

男２ マンデーな

男１ 火曜日はファイヤーデー

男２ チューズデー

男１ 水曜は水だから、ウォーター。木曜はウッディ。金曜日は花金

男２ それ日本語

男１ あ、ゴールデン……ウィーク

男２ それじゃ一週間になっちゃうだろ

男１ うるさいな、文句言うなよ

男２ 教えてやってんだろ、お前が文句言うな

男１ 英語苦手なんだよ。小文字のｂとｄって未だにどっちか分かんないんだよね

男２ 小学校行け

男１ 小学校で英語やらないだろ

男２ 最近はやるらしいよ

男１ そうなの？

男２ うん

男１ 日本人に英語なんか必要ないと思いませんか？

男２ 少なくともお前にはもっと教養が必要だと思うよ

男１ よし、俺の教養の高さを見せてやる

男２ は？

男１ 国語をやろう

男２ 英語は？

男１ 英語は大丈夫だ

男２ 全然大丈夫じゃないよ

男１ 四字熟語。次の意味に合う四字熟語を答えなさい。死にものぐるいの苦しい戦い

 間。

男１ ほら

男２ え？

男１ 早く答えろよ

男２ 俺が答えるの？

男１ 当たり前だろ。俺が問題出してんだから

男２ お前の宿題だろ

男１ いいから

男２ 何だっけ？

男１ 死にものぐるいの苦しい戦い。最初の文字は悪

男２ 悪戦苦闘

男１ あぁ

男２ 答えさせてるだけだろ

男１ そんなことないよ

男２ じゃあ問題出してやるよ

男１ いいよ

男２ 言葉でなく心から心へつたえること

男１ テレパシー

男２ 四字熟語だよ。最初はイ

男１ イ？

男２ 次はシ

男１ 石の上にも三分

男２ 以心伝心

男１ あぁ

男２ 四字熟語だからな。それから三分じゃなくて三年な

男１ そうだっけ？

男２ どんな諺だよ？　三分って

男１ せいぜい三分しか我慢できないってことだよ

男２ 次。自分の行いの報いを受けること。最初はジ

男１ 自画自賛

男２ 自業自得

男１ あー

男２ お前、全然ダメだな

男１ 漢字って苦手なんだよ。ことわざだったら得意だぞ

男２ 間違ってたじゃん

男１ もう大丈夫

男２ よし、ことわざな。次の意味を表すことわざを答えなさい。危険を冒さないと大きな利益を得ることはできない

男１ え？　何だ？

男２ ヒント、虎

男１ 分かった。虎穴に入らずんば、喰われず

男２ 何それ？

男１ 危険なことをしなければ怪我とかしないですむって意味だよ

男２ 意味変わってるだろ

男１ いいんだよ。次

男２ 一度失敗した事は取り返しがつかない

男１ ん？

男２ 覆水

男１ 覆水……盆？

男２ そう、盆

男１ 覆水ボンボヤージュ

男２ 何それ？

男１ フランス語で「よい旅を」って意味

男２ 何で？

男１ 水をこぼしちゃってさ、でも水ってのは地面に吸い込まれて地下水になるんだ。それから川になって流れて、いつか海に出る。そして蒸発して雲になり、雨が降って自分のところへ戻ってくるんだ。水だって旅をしてるんだよ

男２ それ、意味全然違うよ

男１ いいんだよ、これで

男２ 何で英語分かんないくせにフランス語知ってるの？

男１ なめんなよ

男２ 国語全然ダメじゃん

男１ ダメじゃない

男２ やり直せ、人生を

男１ そこまで言うなよ。俺の人生結構楽しいぞ

男２ あぁ、楽しいだろうな

男１ 換わってやろうか？

男２ 絶対嫌だ

男１ よし、国語終わり

男２ 終わり？

男１ 後は何とかなるだろ

男２ 何ともならない気がするんだけど

男１ 後は、これはヘビーだぞ

男２ 何？

男１ 読書感想文

男２ 書くの？

男１ 当たり前だろ。宿題なんだから

男２ そりゃそうだけど

男１ まずはどう書くか考えないとな。僕はこの夏休みに「タカシくんの冒険」という本を読みました

男２ え？

男１ 何？

男２ 本読んだの？

男１ え？　読んでないよ？

男２ は？

男１ 何？

男２ 読んでないってどういうこと？

男１ どういうことって、だから読んでないんだよ

男２ なぜ？

男１ なぜって？

男２ 読んでない本で読書感想文書くの？

男１ 読書感想文書くのに本なんか読んでどうするんだよ

男２ 読まなきゃ書けないだろ

男１ 大丈夫、書いてみせる

男２ どうやって？

男１ できるよそれくらい。ちなみに「タカシくんの冒険」って本は読んでないんじゃなくて、こんな本は存在しないからな

男２ どういうこと？

男１ だから、自分で本の内容を考えて、それについての感想を書く

男２ お前はバカか

男１ バカ。自分で本の内容考えるのって大変なんだぞ。普通に感想書くのの倍は疲れる

男２ だったら何か本読めよ

男１ 嫌だよめんどくさい

男２ 何だかものすごい矛盾を感じる

男１ さてと、どんな話にしようかな

男２ 今から考えるの？

男１ 大体考えてあるんだけどさ。タカシくんは小学三年生。今年の夏休みも田舎のおばあちゃんの家に行くことになりました。おばあちゃんの家は海が近くて、綺麗な砂浜があります。その砂浜で打ち上げられて死にかかってる魚を見つけて、タカシくんは魚を海に返してあげました。翌日、海で遊んでたタカシくんは、大きな波にさらわれて海でおぼれてしまいます。「もうダメだ、死んじゃうよ」と思っていたら、そこに現れたのは、さて何でしょう？

男２ いきなり振るなよ。分かんないよ

男１ ヒント、魚類。はい残念でした。正解は、なんと昨日助けた魚だったんです。はい、魚登場

男２ え？

男１ ほら、お前だよ

男２ 俺？　何で？

男１ いいから、ほら。自己紹介

男２ 自己紹介？

男１ 岩下くんだろ

男２ 岩下くん？

男１ お前はイワシの岩下くん

男２ はぁ

男１ ほら、自己紹介

男２ イワシの岩下です

男１ よろしくね、岩下くん。そして岩下くんは不思議なウロコをくれました

男２ ……え？

男１ ほら

男２ どんな？

 男１、男２に耳打ちする。

男２ このウロコを持ってると、水中で息ができるようになるんだ。泳ぐのも得意になるんだよ

男１ 本当？　ありがとう

男２ 何で俺にこんなことやらせるんだよ

男１ 気分だよ。そしてタカシくんは岩下くんと海の中を泳いでいきました

 二人、泳ぐ。

男１ ふと下を見ると、タコさんが岩にはさまっていました。タコさん、どうしたの？

男２ え？

男１ タコさん、どうしたの？

男２ 俺？

男１ そうだよ

男２ 岩下くんは？

男１ 岩下くんはもういいから。ほら

男２ 足が岩にはさまって動けないんだ

男１ もっとタコっぽく動けよ

 男２、タコっぽく動く。

男２ 足が岩にはさまって動けないんだ

男１ 違うだろ。足が岩にはさまって動けないんだタコ、だろ

男２ 何だよその喋り方

男１ 当たり前だろ、タコなんだから

男２ 何で俺がそんなことしなきゃいけないんだよ

男１ ちゃんとやらないと感想文書けないだろ。わがまま言ってんじゃねぇよ

男２ ……

男１ ほら

男２ 足が岩にはさまって動けないんだタコ

男１ じゃあぼくが岩をどかしてあげるよ。タカシくんは岩をどかしてあげました

男２ ありがとう。ぼくはタコの…何て名前？

男１ 八つ足くん

男２ 八つ足ですタコ

男１ よかったね、八つ足くん。八つ足くんはお礼に足をくれました

男２ 足？

男１ 足

男２ じゃあ、お礼にぼくの足をあげるよ

男１ え、いいの？

男２ 八本あるから一本くらいなくなっても平気タコ

男１ ありがとう。タカシくんは八つ足くんと別れて泳いでいきました。すると向こうからサメがやってきました

男２ 俺様はサメの鮫島だ。腹が減った。みんな食ってやるサメ

男１ お、それっぽいじゃん

男２ ヤケクソだよ

男１ タカシくんは必死に逃げたけれど、すぐに捕まってしまいました

男２ さあ、覚悟しろサメ

男１ 待って。これをあげるから見逃してよ

男２ 何だこれは？

男１ タコの足だよ

男２ タコの足？　そんなもので…パクリ。うまい。これはうまいサメ

男１ そんなにおいしい？

男２ こんなうまいものは食べたことがないサメ。もっとないか？

男１ もうないよ。でもタコさんは向こうにいるよ

男２ そうか。じゃあそいつを食べに行ってくる

男１ うん、そうしなよ

男２ いいものをくれたからお礼にこれをやろう

男１ うわぁ、フカヒレだ

男２ じゃあな

男１ バイバーイ。こうして何とかピンチを乗り切ったタカシくん。安心したのも束の間、突然辺りが真っ暗に。何とタカシくんはクジラに飲み込まれてしまったのです（※１）。暗いよ狭いよ怖いよ（※２）。ここはクジラのお腹の中。このままではクジラのウンコになってしまう。どうしよう、落ち着けタカシ。勇気を持って飛び出すんだ。タカシくんはクジラが潮を吹くのと同時に外へ飛び出しました。うわぁー。気がつくと、タカシくんは浜辺に倒れていました。そこへ優しそうなおじさんが声をかけました。大丈夫か、キミ。うん、大丈夫だよ。おや、キミが持ってるそれは何だい？　タカシくんは鮫島くんにもらったフカヒレをおじさんに渡しました。こ、これは幻の超フカヒレ。ぜひ私にゆずってくれ。いや、でもこれはサメさんにもらった大事なフカヒレなんだ。そんなこと言わないで。礼ならいくらでもするぞ。本当？　タカシくんはフカヒレをおじさんに売って大金持ちになりました。そしてお父さんとお母さんと仲良く暮らしました。そのときです。どこからか声がしました。タカシ、起きなさい。タカシ。目を覚ますとタカシくんは自分の部屋のベッドの上です。ほら、今日はおばあちゃんの家に行くんだから。早く仕度しなさい。どうやら全部夢だったようです。あれ？　でもよく見ると布団の中に岩下くんからもらったウロコが。ねぇ、見てよ。夢だけど夢じゃなかった（※３）。何言ってるの？　早くしないと置いてくわよ。待ってよー。そしてタカシくんはおばあちゃんの家に行きました。おわり

男２ 何？その話

男１ タカシくんの冒険

男２ 高校生が読む内容じゃないだろ

男１ いいんだよ、本は本なんだから

男２ タコを犠牲にするなよ。タカシくん最低だな

男１ 知恵を使って危険を乗り切る。立派だと思うよ

男２ 立派か？

男１ 後はこのあらすじに適当に感想つければいいから。完璧。宿題終わり

男２ 終わってねぇよ

男１ 気分的にはもう終わった

男２ まあいいや。後は自分で何とかしろ。さて、帰ろうかな

男１ もう帰るの？

男２　 こにいてもやることないしな。お前といると何かろくなことなさそうだし

男１ あのさ

男２ 何？

男１ ひとつ言っておかなきゃいけないことがあるんだ

男２ 何だよ？

男１ こんなこと言うとお前は怒るかもしれないけど

男２ だから何だよ？

男１ 怒らない？

男２ それは聞いてみないと分からない

男１ それじゃダメだよ、絶対怒るもん

男２ 何なんだ一体

男１ 冷静になって聞いてくれよ

男２ ああ

男１ 始業式さ、本当は今日なんだ

男２ ……は？

男１ 夏休み、本当は昨日までなんだよ

男２ ちょっと待って。冗談だろ？

男１ ううん

男２ マジで？

男１ マジで

男２ 何だよそれ

男１ ごめんな、嘘ついて

男２ え？　じゃあ……え？　もう始業式始まってんじゃん

男１ うん

男２ うんじゃないよ。どうするんだよ

男１ どうしよう

男２ どうしようって。何でそんな嘘つくんだよ？

男１ だって学校行きたくなかったんだもん。宿題やってないと怒られるしさ

男２ 宿題やってなかったら怒られるのは当たり前だろ。俺を巻き込むな

男１ だってさ、学校行きたくないなぁって思いながら準備してたら、お前があんまりさわやかな顔でおはようとか言うから、何かイラっとしてさ。思わず、騙したくなって

男２ お前最悪だな

男１ 今頃校長先生の話かな

男２ えー？　どうするんだよ。今から学校行くのか？

男１ 行った頃には終わってそうだしな

男２ そうだよな

男１ それに俺、宿題終わってないし

男２ それはお前の問題だろ

男１ ごめんな

 間。

男１ 怒らないのか？

男２ 怒る気力もない

男１ そうか

男２ 親に怒られるかな

男１ そうかもな

男２ あーあ、どうしよう

男１ 怒られたら、そのときは俺のせいだって言っとけ

男２ お前のせいだろ

男１ うん

 間。

男１ セミが鳴いてるな

男２ ああ

男１ 夏、終わっちゃうな

男２ ああ

男１ ずっと夏休みだったらいいのにな

男２ そうだな

男１ セミってさ、一週間くらで死んじゃうんだろ？

男２ 成虫はな

男１ もし、あと一週間しか生きられないんだったら、何する？

男２ え？

男１ お前の人生があと一週間だったらどうする？

男２ 思いつかないよ、そんなこと

男１ そうか

男２ お前は？

男１ え？

男２ お前だったら何する？

男１ 何もしない

男２ 何も？

男１ 俺の人生はずっと夏休みだ

男２ お前らしいよ

男１ 学校行こうか

男２ 今から？

男１ うん

男２ 今更かよ

男１ 行かないよりマシだろ

男２ 何て言い訳するんだよ。恥ずかしいよ

男１ 一緒に恥かこうぜ

男２ お前のせいだろ

男１ さ、行くぞ

男２ 宿題は？　終わってないだろ？

男１ いいよ、怒られれば。いつものことだからな

男２ そうか。じゃあ行きますか。あぁ、でも行きたくないな

男１ 何言ってんだよ。置いてくぞ

男２ 待てよ、おい

 二人、退場。

 終わり。

【参考】

※１　『ピノキオ』ディズニー

※２　『うる星やつら』高橋留美子

※３　『となりのトトロ』スタジオジブリ